



進取 根気 奉仕

KURIKOMA J.H. SCHOOL












栗原市立栗駒中学校閉校記念誌



ありがとう

～みらいにつなぐ栗原市閉校記念誌～

2013.03

	校章・校旗			1
	校歌			2
	あいさつ			
	栗駒中学校の閉校に寄せて	栗原市長	佐藤 勇	3
	栗駒中学校の閉校に寄せて	栗原市教育委員会 教育長	亀井 芳光	4
	閉校によせて	栗原市立栗駒中学校 校長	氏家 光彦	5
	閉校によせて	栗原市立栗駒中学校 第2代父母教師会会長	吉澤 和宏	6
	栗中最後の生徒として	栗原市立栗駒中学校 生徒会長	狩野 雄樹	7
	栗駒中学校 沿革の概要			8～10
	学校の概要			
		地域の特色と概要		11
		周辺地図		11
		校舎のようす		12
		生徒数と学級数の推移		13
	栗駒中学校学校行事			
			～1学年	14
			～2学年	15
			～3学年	16
	歴代校長			17
	歴代父母教師会会長			18
	寄稿文			
	栗中との絆を持ち続けて、そして忘れられない思い出	第12代校長	小野寺邦義	19
	閉校にあたり私が望むところ・・・	第16代父母教師会会長	菅原 敏元	20
	栗駒中学校閉校に寄せて	学校評議員	佐々木定行	21
	新たな目標	東北相撲連盟副会長 宮城県相撲連盟副会長	佐藤 範男	22
	「ついていない学年」と言われたけれども	平成22年度卒業生	佐藤 慎也	23
	出会い	平成17年度卒業生	熊谷瑠美子	24
	夢をもって	平成5年度卒業生	五十嵐義光	25
	今もあの頃のままだ	昭和54年度卒業生（第6回生）	遠藤 俊一	26
	思い出のアルバム			27～39
	あとがき			40



校章の由来について



秀峰栗駒山をいただく旧栗駒町は、旧岩ヶ崎・栗駒・尾松・姫松・文字・鳥矢崎の六つの町村の合併により誕生しました。

これを六枚の羽として表し、限りなき発展を目指して羽ばたく姿を表現したものです。

デザインは、工藤松之助氏により制作され、岩ヶ崎、尾松両中学校の統合にともない昭和46年4月1日に制定されました。

さらに、昭和49年4月1日に文字、栗駒第二、耕英中学校が統合され、現在の栗駒中学校校章となっています。



校歌

作詞 山本 正
作曲 海鋒 義美

希望にみちて (♩=112くらい)

mf

あ さ ひ ゆ う ひ に て り は え て き
は さ ま う る お す と ち ひ ろ く お

mp

よ ら か ら な み ね く り こ ま り の め ぐ ま
お ぞ ら の も と て を と り て あ か る

mf

れ し ち に は ぐ く ま れ い の ち ゆ た か に た く ま し く ま
く き よ く す こ や か に た む ろ が お か の ま な び や に み

な び の み ち ー の ゆ き か え り く も は と ぶ く も は と
と せ の わ ぎ ー を い そ か し ま ん か ぜ か お る か ぜ か お

f

ぶ き ほ う を の せ て か ー が や か に
る り そ う を の せ て さ ー わ や か に

栗駒中学校 校歌

作詞 山本 正
作曲 海鋒 義美

一、朝日夕日に照り映えて

清らかな嶺 栗駒の

恵まれし地に 生まれ

生命ゆたかに たくましく

学びの道の行き帰り

雲は飛ぶ 雲は飛ぶ

希望をのせて 輝やかに

二、迫うるおす沃地ひろく

大空のもと 手をとりて

明るく清く すこやかに

屯が岡の学校に

三年の業を いそしまん

風かおる 風かおる

理想を乗せて さわやかに



栗駒中学校の閉校に寄せて

栗原市長 佐藤 勇

秀峰栗駒山の裾野に位置し、山紫水明、素晴らしい自然美と環境に恵まれ、子どもたちに多くの学びを与えてきた栗駒中学校が閉校するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昭和49年に、旧栗駒町内5中学校（岩ヶ崎中、尾松中、栗駒中、文字中、耕英中）が統合し、栗駒中学校として開校以来、長い歴史と伝統を築き、栗駒地区の発展と地域文化の進展に重要な役割を果たしてこられました。

恵まれた地域環境の中、学校及びPTAまた生徒個人にわたり幅広い分野において多くの優良受賞をされておりますことは、地域皆様の長年にわたる温かい御支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史の中で、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する深い御理解と御協力によりまして、健全な子どもたちの育成やPTA活動が活発に行われてきたのが栗駒中学校であります。

特に、「進取 根気 奉仕」を生活信条として「自ら学び自ら考える生徒」の育成を目指して授業づくりや校内研究を推進され、確かな学力を育むため少人数教育や個に応じた指導、家庭学習の習慣化に力を入れるとともに、さらには、地域での福祉体験活動、養護学校や福祉施設の訪問、点字教室等、豊かな心を持ち、自らを高めあう生徒の育成に力を注がれてきたところであります。

また、平成17年度より2か年にわたり宮城県教育委員会から指定を受けて、家庭・地域と学校が協働し、社会の中でたくましく生きる力と、豊かな職業観をもった生徒を地域全体で育成するために「起業教育」に取り組み、3年生の修学旅行では、栗駒中学校出身者の企業・事務所を訪問するなど地域の特色を十分に生かした実践が展開されてきました。

地域と学校が一体となって育んできたことは、心身ともに健全な生徒育成の成果として、粘り強い精神力と高い集中力を要し、学習以外の分野でも発揮されたことは明瞭であります。部員数は少ないものの全国大会には、これまでに26回出場し強豪校として知られる相撲部や、各種音楽コンクールに出場し上位入賞を果たしている合唱部や吹奏楽部など、卒業後も多くの優れた人材を世に送り出し、県内外におきまして、御活躍されておりますことは、栗駒地区の皆様の長年にわたる温かい御支援の賜であります。

このように歴史と伝統ある栗駒中学校が、今日の社会的な問題である少子・高齢化の傾向による児童・生徒の減少などの背景から、栗原市においても学校の再編が避けられず、本年3月31日をもって校史を閉じることとなりましたことは、非常に残念でなりません。これまで栗駒中学校を巣立った皆様にとりまして、母校の閉校は何事にも耐え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものと拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ栗駒の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

栗原市といたしましても、今後、「学府くりはら」の実現に向けて、教師と子どもたちがしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる教育環境づくりを目指すとともに、栗駒中学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。



栗駒中学校の閉校に寄せて栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

平成25年4月、栗駒中学校は鶯沢中学校と再編し、新生「栗駒中学校」として現在の地・校舎のもとでスタートすることになりました。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました栗駒地区の皆様にご心より感謝申し上げます。

昭和49年4月旧栗駒町内5中学校が統合され、栗駒中学校として開校してから39年。秀峰栗駒山の四季折々の姿を望みながら学ぶことができる素晴らしい環境の中、「進取」「根気」「奉仕」を生活信条に多くの卒業生を送り出してきました。

栗駒地区は相撲が大変盛んな地域であり、栗駒中学校は県内でも唯一相撲部が常設されており、全国大会出場26回という成果を上げております。また、スキー全国大会出場、バドミントン部の市中総体7連覇、各種音楽コンクールでの上位入賞等スポーツ・文化活動において数々の活躍の足跡を残してきました。

近年は「起業教育」や修学旅行における「職場訪問」など豊かな職業観を持った生徒の育成に取り組んでおり、その支えとなったのが、保護者の皆様や地域の皆様でありました。子どもたちの良き理解者であり、時には学校へのご助言をいただきながら、地域と一体となった教育活動が行われましたこと、改めて感謝申し上げます。

しかしながら、少子化による児童生徒数の著しい減少や急激に変化する時代に生きる子どもたちの将来を考えると、学校再編は避けて通ることはできません。栗駒中学校は、慣れ親しんできた校舎や校名は、結果としてそのまま継承することにはなりますが、再編にあたっては、これまでの栗駒中学校を閉校とし、鶯沢中学校との再編による新たな栗駒中学校としてスタートを切ることになります。

再編後は、子どもたちも地区の皆様もこれまで脈々と受け継がれてきた栗駒中学校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、新しい出会いを喜び、共に学び、励ましあいながら、新しい伝統を築き上げ、「地域とともに歩む 新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくれることを信じてやみません。その実現のためには、地域・家庭・学校・教育委員会ははじめ関係機関との連携が大切であります。新たに仲間となる鶯沢中学校の子どもたち、保護者、地域の皆様との交流を深め、「再編してよかった」と語り継がれる新しい学校を創り上げていただきたいと思います。

結びに、閉校にあたり、これまで永きに渡り栗駒中学校を温かく見守り、支えていただきました地域の皆様にご心より敬意と感謝を申し上げまして、閉校記念誌に寄せる言葉といたします。

秀峰 栗駒山

閉校に寄せて

栗原市立栗駒中学校

校長 氏家 光彦

栗駒中学校は、昭和46年岩ヶ崎中学校と尾松中学校の統合により「栗駒町立栗駒中学校」として創立し、昭和49年には、栗駒第二中学校、文字中学校、耕英中学校が統合されました。平成17年には広域合併により「栗原市立栗駒中学校」に校名が変更されましたが、今日まで、43年の歴史を刻み、7千余名の栗中生が、「進取 根気 奉仕」の生活信条のもとに、かけがえのない青春の日々を屯が岡の学舎で送ってまいりました。代々の生徒会誌「屯が岡」を開けば、脈々と受け継がれる「伝統」と当時の諸活動に懸ける栗中生の息吹が伝わってきます。この度の閉校にあたり、この素晴らしい校風を築きあげてきた先輩の皆さまそして指導にあたってきた教職員の皆さま、惜しみないご支援とご協力を賜りました保護者、地域の皆さま、そして関係諸機関の皆さまに衷心より御礼を申し上げます。

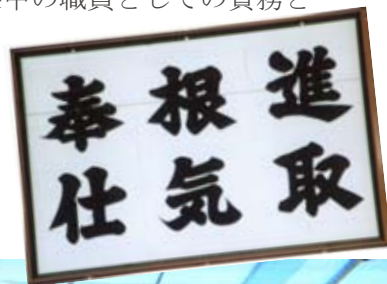
本校の沿革をたどりますと、開校から10年は、体育館竣工(49)、バックネット、テニスコートの設置、技術棟竣工(50)、生物室設置(52)、プール設置(54)等主な教育施設の整備とともに、県緑化コンクール3年連続入選が物語るように学校環境の整備が進められました。また宮城県教育委員会指定公開研究会(53)、栗原郡中学校総体総合優勝(52)、PTA活動文部大臣賞受賞(55)等、この時期はまさに栗駒中学校の基盤が築かれた時期と言え、統合栗駒中学校に対する当時の保護者の皆さま、地域の皆さまの大きな期待とご尽力に思いを馳せては、今更ながら栗中の職員としての責務と伝統の重みを感じずにはおれません。

昭和60年代は県教委、文部省指定の研究と公开发表が続き、まさに「栗中の教育」の充実が図られ、平成に入り栗駒町政40周年(7)を迎え記念事業として行われた国際交流事業では中国研修、ドイツ研修に生徒を派遣していただくなど、恵まれた教育施策のもと豊かな教育活動が展開されました。また平成17年の県教委指定の「起業教育」はその後も地域の皆さまのご支援により本校の特色ある教育活動として定着し、今もなお新たな展開を求めているところです。

生徒諸君もまたその期待に応え、部活動では東北中学校相撲大会優勝、NHK学校音楽コンクール東北大会銀賞をはじめ輝かしい伝統を残し、後輩達はその誇りを引継ぎ、己が自信として学校生活を送ってきました。そして、この1年は、いよいよ歴史を閉じる最後にふさわしい充実した学校生活にすべく、生徒会を中心に「全力」を合い言葉に取り組んできましたが、生徒諸君のひたむきな姿勢は栗中の歴史を見事に完結させるだけでなく、新生栗駒中学校の礎を築く力に高めてくれたものと感謝しているところです。

さて、再編にあたりましては、栗原市教育委員会、とりわけ教育環境推進室並びに再編準備委員会の皆さまには2年にわたり丁寧なご指導をいただきまいりました。校名、校歌、校章、制服等々の制定など、再編中学校に寄せる地域の皆さまの期待を肌で感じながら、学校として大きな経験をさせていただきました。そして、次年度への私たちの思いも何とか引き継ぐことができたものと考えております。たいへんお世話になりました。

結びに、これまで永きにわたり、栗駒中学校の教育活動にご支援とご協力を賜りました保護者の皆さま、地域の皆さまに衷心より感謝申し上げますとともに、新生栗駒中学校の発展のために今後もお力添えを賜りますようお願い申し上げます、閉校の挨拶といたします。



校舎から望む 秀峰栗駒山



閉校に寄せて

栗原市立栗駒中学校
第22代父母教師会会長 吉澤 和宏

栗駒中学校の閉校にあたり、一言挨拶いたします。

栗駒中学校は、昭和46年の開校から43年という年月を経て、旧栗駒町区の中学校としての歴史に幕を閉じることになります。平成25年4月からは、校名こそ同じ「栗駒中学校」ですが、鶯沢中学校との学校再編により、栗原市北部の中学校として新たに歩むこととなります。

さて、今改めて栗駒中学校について振り返りますと、自分を成長させてくれた大きな存在であったとしみじみ思い出されます。私自身、旧栗駒町の中学校が統合されてできた今の校舎から卒業した最初の中学生でした。2年生までは、岩ヶ崎三島にあった岩ヶ崎校舎で過ごし、中学3年生の1年間を新校舎で送ったのです。新校舎では、一遍に9クラスの大所帯となり、教室棟の中央階段をはさんだ向こう側のクラスとはほとんど交流の持てないまま1年を過ごしたほどの大きな統合でした。

また、校舎も統合された新制中学校であるからきちんとした応援団組織を、ということで各クラスから数名ずつ選出され、岩ヶ崎高校応援団の指導を受けさせられたりもしました。そのときの岩高応援団長から、ただ声大きいというだけで栗駒中学校初代応援団長を指名されたのは、大変なプレッシャーとともにとても名誉なことでした。その後の活動に対する周りからの評価を思い起こすと、これまでの人生の中でも栄光の1年間であったと思わずにはられません。

自分自身のことばかり書いてしまいましたが、来年度新生となる栗駒中学校の生徒のみなさんにとっても、この再編統合はひとつの転機となるでしょう。私が中学生のときに経験したような大きな統合ではないかもしれませんが、しかし、また新しい仲間との出会い、交流があるのです。新たな友人との交流を通じて、新しい自分自身を発見したり、これまで付き合いしてきた友人達との絆を再認識したりするなど、さらにお互いを高め合う学校にしてくれることを願って止みません。

閉校とはいえ、新たなスタートを切る栗駒中学校というイメージが強いのは私だけでしょうか。閉校をしみじみと思うのではなく、未来に目を向けることでこれからも栗駒中学校を見つめようと考えています。

最後になりましたが、本校生徒の育成にご尽力いただきました歴代の校長先生をはじめ、諸先生方、また保護者の皆様、そして地域の皆様方に深く感謝を申し上げるとともに、新生栗駒中学校の発展のために今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げ、閉校にあたっての挨拶と致します。



校内マラソン大会



野外炊飯（佐野橋上流）

統合当時の様子



統合当時の校舎

栗中最後の生徒として

栗原市立栗駒中学校
生徒会長 狩野 雄樹

今年には学校生活の様々な場面で、「最後」という言葉が使われることが多い年でした。来年度から、鶯沢中学校との学校再編により、新しい栗駒中学校として生まれ変わります。

そのような状況の中で、今までの栗中の集大成として、生徒会では「全力疾走」というスローガンを掲げて様々な活動に取り組んできました。栗中最後の生徒として誇りをもち、また最上級生として模範となれるように、全力で走り抜けた1年でした。

市中総体では、四つの部が団体優勝と素晴らしい成績を収めました。文化面でも、県弁論大会で最優秀賞を受賞するなど、運動面に負けない活躍が見られました。

生活面では、伝統となりつつある「あいさつ運動」を基に、元気なあいさつが行き交う清々しい環境で、学校生活を送ることができました。

各行事に対しても、栗中生としての誇りを胸に、学年の境を超え団結して取り組む姿勢がたくさん見られた1年間でした。「全力疾走」で駆け抜けたこの1年は、栗中の最後にふさわしいものだったと感じています。

来年度からの学校再編にあたって私が望むのは、伝統の継承とさらなる発展です。これからも、栗中の伝統を先輩から後輩へと伝えていき、再編後もこれまでのような、心の優しい人がたくさんいる栗中であってほしいと思います。2学期からは委員会や部活動などで、1・2年生が主体となって活動しましたが、後輩の皆さんの熱心な取り組みを目にすると、再編後も良い伝統を継承するとともに、新たな栗中の良さを生み出してくれるのではないかと、期待が膨らみます。後輩の皆さんが一致団結し、栗駒中学校をより素晴らしい学校にしていくことを心から願っています。

私たち3年生は3月で卒業し、それぞれが新しい場所で、自分の道を歩むことになります。栗中最後の卒業生として、栗中で学んだ友達への思いやり、ものごとひたむきに取り組む姿勢、元気なあいさつをいつまでも忘れずに歩んでいきます。それこそが私たちの母校、栗駒中学校への一番の恩返しになると思います。

私たちが育ててくれた栗駒中学校、本当にありがとう。



新学級発表



3年PTA行事

平成24年度



皆既日食



修学旅行職場訪問



入学式



昭和46年1月、統合中学校校地が、栗駒町中野大柳100番地(73,417㎡)に決定された。同年4月1日、岩ヶ崎中学校、尾松中学校の2校を統合して栗駒中学校とし、それぞれ岩ヶ崎教場、尾松教場と称することとなった。従来の栗駒中学校の名称は、栗駒第二中学校に変更された。昭和48年9月1日、新校舎建築工事が竣工され、10月1日には校歌が制定された。



年度	校長	父母教師会長	月日	事項	学級数	在籍数
昭和49	菅原達雄	高橋三治	4 1	栗駒第二中学校、文字中学校、耕英中学校の統合をもって5校の統合となる。	27	1048
			4 10	第1回入学式		
			10 1	体育館竣工		
			3 11	第1回卒業式(390名)		
50		五十嵐重太郎	4 1	校舎落成式典	25	955
			7 1	バックネットの設置		
			8 1	LL教室の設置		
			9 1	テニスコートの設置		
			12 1	技術棟竣工(712㎡)		
51			9 28	校旗樹立式	22	885
52	菅原敏允		9 10	緑化コンクール努力賞受賞	22	843
			10 1	生物室設置		
			11 1	第2次緑化事業完了(庭園、耕英の森)		
			3 31	昭和52年度学校教員統計調査表彰		
53			10 5	宮教委指定「教育機器利用公開研究会」	21	783
			11 9	県緑化コンクール入選		
54	佐藤英夫	斉藤武夫	8 12	プール落成式典	19	709
			9 14	東北PTA連絡協議会長表彰		
			11 15	県緑化コンクール入選		
			3 3	校門除幕式		
55		佐藤義光	7 21	相撲部県大会団体優勝	17	639
			8 19	相撲部全国中学校相撲大会出場		
			11 12	県緑化コンクール入選		
			11 21	PTA活動文部大臣賞受賞		
56	菅原正平	小野寺稔	8 9	東北中学校陸上大会出場	16	625
			8 19	全国相撲選手権大会出場		
57			5 31	中田中との定期戦開始(第1回会場中田中)	16	605
			8 21	全国中学校陸上競技大会出場		
			11 18	県緑化コンクール入選		
58			4 19	福祉教育研究指定を受く	16	613
			8 19	全国相撲選手権大会出場		
			10 2	統合十周年記念式典举行		
59	菅原敬州	千葉 毅	5 1	体育器具庫竣工	16	622
			8 1	全国相撲選手権大会出場		
60			5 23	宮教委指定「在学青少年健全育成推進モデル地区」	17	661
			5 29	文部省指定「中学校生徒指導総合推進校」		
			8 18	全国相撲選手権大会出場		
			8 25	校庭暗渠排水工事		
			11 29	福祉教育成果発表(県大会)		



授業の様子(昭和50年)



中総体(昭和54年)



郡駅伝大会(昭和59年)





年度	校長	父母教師会長	月日	事項	学級数	在籍数		
昭和	61 清原通雄	若林忠義	8 10	陸上競技東北大会出場	18	676		
			8 19	全国相撲選手権大会出場				
			10 22	文部省指定「生徒指導総合推進校」公開研究発表会				
			2 10	県教委指定「在学青少年健全育成推進モデル地区」研究発表会				
	62	千葉義信	8 19	全国相撲選手権大会出場			19	688
	63 佐藤 通		8 8	外国人英語助手着任			18	669
8 18			全国相撲選手権大会出場					
1 13			栗駒スクールバス新車納車式					
平成	元	菅原義幸	6 25	アスベスト除去工事（視聴覚室、音楽室）	19	669		
			8 18	全国相撲選手権大会出場（鳥取県）				
			9 9	合唱部NHK学校音楽コンクール東北大会銀賞				
			11 19	合唱部T B C子ども音楽コンクール東北大会奨励賞				
	2 佐藤昭夫		6 19	東北財務局監査	19	645		
			8 18	全国相撲選手権大会出場（高知市）				
			9 25	アスベスト除去工事（屋体・ボイラー室）				
	3		4 12	文部省平成3・4年度中学校教育課程研究指定校	21	667		
			7 24	文部省平成3年度教育課程研究開発校指定校				
			7 24	文部省選抜履修の幅の拡大に関する調査研究指定校				
			8 23	全国相撲選手権大会出場（大分県）				
	4 佐藤睦夫	佐藤正則	9 28	文部省指定教育課程公開研究会	20	649		
	5		9 26	統合20周年記念栗中祭開催	19	659		
	6	菅原孝治	12 2	コンピュータ設置工事竣工	19	644		
			12 15	大規模改修工事特別教室棟竣工				
	7 八巻 優	千葉隆雄	8 20	相撲部全国大会出場（個人）	19	631		
			9 6	宮城県合唱コンクール銀賞				
			12 14	大規模改修工事屋内体育館竣工				
	8		8 21	相撲部全国大会出場（三重県）	19	632		
			12 15	大規模改修工事屋内体育館竣工				
	9 佐藤典義	高橋清行	8 23	相撲部全国大会出場（高知県）	17	551		
12 27			西側通学路舗装工事完了					
10		5 21	県教委指定「中高連携教育」	17	523			
		8 19	相撲部全国大会出場（岩手県）					
		9 8	玄関前、校舎裏舗装工事完了					
		1 20	受変電設備改修工事竣工					
11 佐藤 彰	佐藤寿紀	8 25	相撲部全国大会出場（長野県）	16	496			
		11 17	中高連携教育実践発表会					
12		8 19	相撲部全国大会出場（沖縄県）	16	503			
		1 5	スクールバス新車納入					
		2 3	スキー全国大会出場（北海道）					
13	菅原敏元	6 29	国際交流事業、ドイツより研修生来校	16	499			
		8 24	相撲部全国大会出場（鳥取県）					
14 小野寺邦義		8 19	相撲部全国大会出場（和歌山県）	14	468			
15	蘇武 平	7 5	統合30周年記念コンサート	13	438			
		8 21	相撲部全国大会出場（北海道）					
		12 19	給水管改修・地震による校舎修復工事					



修学旅行（平成4年）



中総体（平成9年）





年度	校長	父母教師会長	月日	事項	学級数	在籍数					
平成16	門傳忠實	菅原浩紀	8 20	相撲部全国大会出場（東京）	13	387					
			10 22	文部科学省指定学力向上フロンティア事業公開研究発表							
17		佐藤 栄	4 10	コンピュータ更新	13	367					
			5 15	第2回東北選抜中学校相撲大会で優勝							
			8 22	相撲部全国大会出場（静岡県）							
			10 14	県教委指定「起業教育実践校」（～H19）							
			12 26	耐震診断検査実施							
18	高橋 健	菊地正弘	6 6	外トイレ竣工	14	372					
			8 19	相撲部全国大会出場（愛媛）							
			10 3	完全給食実施							
19			6 10	バドミントン部市中総体7連覇	14	357					
			8 18	相撲部全国大会出場（秋田県）							
			10 1	合唱部NHK音楽コンクール連続20回参加表彰							
			12	校舎耐震改修工事開始							
			2 8	スキー全国大会出場（石川県）							
20			6 14	平成20年岩手・宮城内陸地震	13	342					
			7 21	県中総体女子砲丸投げ第二位							
			8 23	相撲部全国大会出場（石川県）							
			9 22	地震による校舎、体育館災害復旧工事（～H21.3.31）							
21	高橋孝夫	千葉 厚	7 19	相撲部宮城県中総体 団体戦優勝、個人戦総合優勝	12	337					
			7 22	相撲部宮城県中総体 3年連続優勝顕彰表彰							
			8 5	相撲部 東北中学校相撲大会 団体戦3位							
			8 22	相撲部 全国中学校相撲大会出場（鹿児島県）							
			9 26	新型インフルエンザ流行のため、栗原市新人大会出場辞退							
			1 15	生徒玄関（昇降口）改修工事							
			2 4	アルペンスキー女子個人全国大会出場（岩手県）							
			2 26	校内教師用コンピュータ更新（各教員用に設置）							
			22					4 3	相撲部 宮城県・栗原市相撲連盟から東北中学校相撲大会団体戦入賞により相撲振興功績賞受賞	12	356
								5 9	相撲部 第7回東日本選抜中学校相撲大会 団体戦優勝 個人男子準優勝及びベスト8入賞		
8 3	相撲部 東北中学校相撲大会 団体戦優勝（青森県）										
8 18	相撲部 全国中学校相撲大会出場（鳥取県）団体戦ベスト16										
9 17	全国自作視聴覚教材コンクール（東京都）生徒会保健委員会制作PCソフト「The 心」中学校部門入選										
3 11	東北地方太平洋沖地震（震源宮城県沖 M9.0）										
23	氏家光彦				8 3	相撲部 東北中学校相撲大会 団体戦第3位（岩手県）		13	347		
					8 20	相撲部 全国中学校相撲大会出場（兵庫県姫路市）					
			9 18	相撲部 東北中学校相撲つがる市大会 団体戦優勝							
			12 5	東日本大震災による校舎・体育館等施設設備災害復旧・安全管理対策工事（～3.29）							
24		吉澤和宏	8 18	相撲部 全国中学校相撲大会出場（両国国技館）	13	341					
			9 23	相撲部 東北中学校相撲つがる市大会 団体戦準優勝							
			9 25	宮城県少年の主張最優秀賞受賞							



地域の特色と概要

栗駒地区は栗原市の北端にあり、市の3分の1を占める広大な面積を持ち、国定公園栗駒山（1627.4m）の山麓に位置している。二迫川や三迫川が地区の中央部を流れ田園を潤し、山紫水明、素晴らしい自然美と環境に恵れ、眺望もよく歴史的にも由緒のある地域である。

昭和30年に1町5か村（岩ヶ崎町・尾松村・栗駒村・鳥矢崎村・文字村・姫松村）が合併して栗駒町になったが、本校は、昭和46年に町内の岩ヶ崎中学校、尾松中学校の統合により開校し、49年度には、栗駒第二中学校、文字中学校、耕英中学校が統合された。現在、4小学校（岩ヶ崎小、栗駒南小、栗駒小、鳥矢崎小）より生徒が入学しているが、平成25年度からは、小学校再編により鶯沢小学校、栗駒南小学校、栗駒小学校が学区内の小学校となる。生徒の通学範囲は広く、徒歩や自転車だけでなく、遠距離通学生徒はスクールバスを利用している。

平成17年度より、宮城県教育委員会から指定を受けて、豊かな職業観を持った生徒を育成するために「起業教育」に取り組んでいる。また、確かな学力を育むため少人数指導や個に応じた指導、家庭学習の習慣化に力を入れている。さらに、豊かな心をはぐくむために、各地区での福祉体験活動、養護学校や福祉施設の訪問、点字教室等にも取り組んでいる。

栗駒地区は、平成13年度に宮城国体相撲競技が開催されるなど、相撲の盛んな地域である。本校に併設されている地区武道館には、屋内相撲場があり、相撲部が常時活動している。部員数は少ないものの、全国大会にはこれまでに26回出場し成果を挙げている。また、吹奏楽部や合唱部の活動も盛んで、各種音楽コンクールに出場し上位入賞を果たしている。

地域においては、教育への関心が高く父母教師会の活動は活発であり、昭和55年度には文部大臣賞を受賞したほか、宮城県の緑化コンクールにも数回入選している。

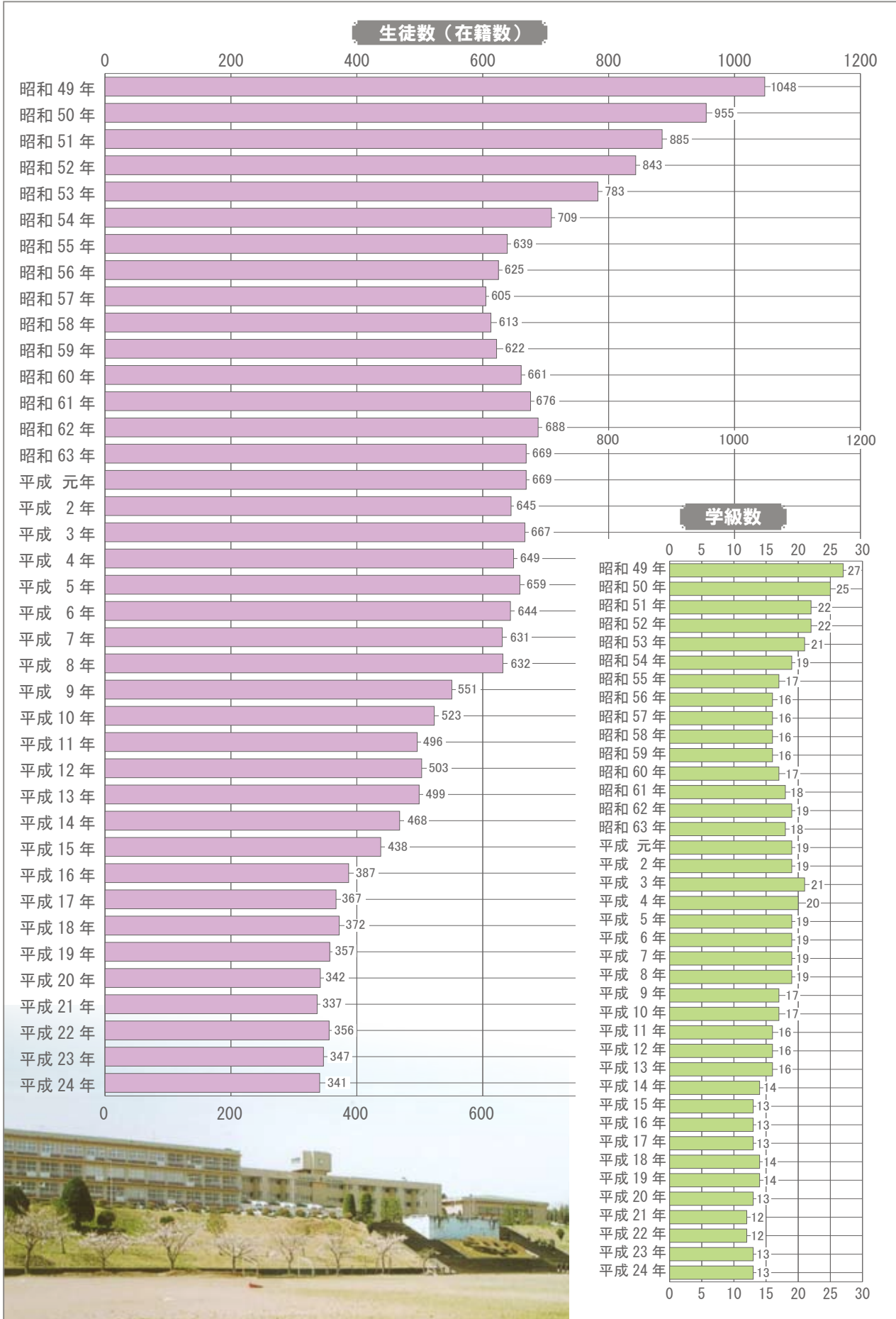
平成17年4月1日に栗原郡9町1村が広域合併し、「栗原市立栗駒中学校」と改名した。

平成23年から、栗原市教育委員会の「栗原市立学校再編計画」により、栗駒中学校と鶯沢中学校の学校再編の実務的な準備が進められ、平成25年4月、新生「栗駒中学校」として新たな一歩を踏み出そうとしている。

**周辺地図**



生徒数と学級数の推移





4月

入学式
対面式
学習参観



入学式

5月

生徒会総会
応援練習



応援練習

6月

市中総体
避難訓練
第1学期中間考査
市陸上・水泳競技大会
わらび座研修

7月

携帯電話教室
校内レク大会
夏季休業日

8月

市駅伝大会

9月

進路講話
第1学期期末考査
市新人大会

10月

立会演説会
第1学期終業式
秋季休業日
第2学期始業式
栗中祭・合唱コンクール



わんこそば体験



わらび座研修

1学年

11月

三者面談
福祉教育（総合的な学習）
避難訓練
第2学期中間考査



栗中祭



階段アート

12月

学習参観
冬季休業日

1月

2月

第2学期期末考査

3月

3年生を送る会
修了式



学習参観



福祉施設訪問

4月

第1学期始業式
対面式
学習参観



新年度学級発表



生徒会総会

5月

生徒会総会

6月

市中総体壮行式
市中総体
第1学期中間考査
市陸上・水泳競技大会
仙台自主研修



仙台自主研修



(職場体験)

7月

校内レク大会
夏季休業日

8月

市駅伝大会

9月

進路講話
第1学期期末考査
市新人大会



(ドッジボール)

校内レク大会



(綱引き)

10月

立会演説会
第1学期終業式
秋季休業日
第2学期始業式
栗中祭・合唱コンクール
起業教育(総合的な学習)



生徒会立会演説会



3年生を送る会

11月

進路説明会
三者面談
避難訓練
第2学期中間考査

起業教育

12月

学習参観
冬季休業日

1月

2月

第2学期期末考査

3月

3年生を送る会
修了式



2学年



修学旅行 (T. D. L)



修学旅行 (国会)



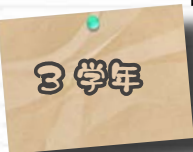
市駅伝大会



市中総体



合唱コンクール



3 学年

卒業式
(卒業証書授与)

卒業式 (卒業記念合唱)



4月

第 1 学期始業式・対面式
全国学力・学習状況調査

5月

修学旅行
生徒会総会

6月

市中総体壮行式
市中総体
第 1 学期中間考査
市陸上・水泳競技大会

7月

校内レク大会
県中総体
夏季休業日

8月

市駅伝大会

9月

進路講話
第 1 学期期末考査

10月

第 1 学期終業式
秋季休業日
第 2 学期始業式
市音楽祭
栗中祭・合唱コンクール

11月

進路説明会
三者面談
ふるさと教育 (総合的な学習)
第 2 学期中間考査

12月

冬季休業日

1月

宮城県公立高校推薦入試
私立高校入試

2月

第 2 学期期末考査

3月

3 年生を送る会
宮城県公立高校学力検査
岩手県公立高校学力検査
卒業証書授与式





歴代校長



初代	昭和49年度～昭和53年度	菅原 達雄	校長
第2代	昭和54年度～昭和55年度	佐藤 英夫	校長
第3代	昭和56年度～昭和58年度	菅原 正平	校長
第4代	昭和59年度～昭和60年度	菅原 敬州	校長
第5代	昭和61年度～昭和62年度	清原 通雄	校長
第6代	昭和63年度～平成元年度	佐藤 通	校長
第7代	平成2年度～平成3年度	佐藤 昭夫	校長
第8代	平成4年度～平成6年度	佐藤 睦夫	校長
第9代	平成7年度～平成8年度	八巻 優	校長
第10代	平成9年度～平成10年度	佐藤 典義	校長
第11代	平成11年度～平成13年度	佐藤 彰	校長
第12代	平成14年度～平成15年度	小野寺邦義	校長
第13代	平成16年度～平成17年度	門傳 忠實	校長
第14代	平成18年度～平成20年度	高橋 健	校長
第15代	平成21年度～平成22年度	高橋 孝夫	校長
第16代	平成23年度～平成24年度	氏家 光彦	校長





初 代	昭和 49 年度	高橋 三治	会長
第 2 代	昭和 50 年度～昭和 51 年度	五十嵐重太郎	会長
第 3 代	昭和 52 年度～昭和 53 年度	菅原 敏允	会長
第 4 代	昭和 54 年度	斉藤 武夫	会長
第 5 代	昭和 55 年度	佐藤 義光	会長
第 6 代	昭和 56 年度～昭和 58 年度	小野寺 稔	会長
第 7 代	昭和 59 年度～昭和 60 年度	千葉 毅	会長
第 8 代	昭和 61 年度	若林 忠義	会長
第 9 代	昭和 62 年度～昭和 63 年度	千葉 義信	会長
第 10 代	平成元年度～平成 3 年度	菅原 義幸	会長
第 11 代	平成 4 年度～平成 5 年度	佐藤 正則	会長
第 12 代	平成 6 年度	菅原 孝治	会長
第 13 代	平成 7 年度～平成 8 年度	千葉 隆雄	会長
第 14 代	平成 9 年度～平成 10 年度	高橋 清行	会長
第 15 代	平成 11 年度～平成 12 年度	佐藤 寿紀	会長
第 16 代	平成 13 年度～平成 14 年度	菅原 敏元	会長
第 17 代	平成 15 年度	蘇武 平	会長
第 18 代	平成 16 年度	菅原 浩紀	会長
第 19 代	平成 17 年度	佐藤 栄	会長
第 20 代	平成 18 年度～平成 20 年度	菊地 正弘	会長
第 21 代	平成 21 年度～平成 23 年度	千葉 厚	会長
第 22 代	平成 24 年度	吉澤 和宏	会長



栗中との絆を持ち続けて、そして忘れられない思い出

第12代校長 小野寺 邦義

私は、栗中を最後に退職してから9年目になりますが、これまで毎年2つのかかわりで栗中と接しています。1つ目は、栗中勤務時からマリーゴールドの苗210本、サルビアの苗210本を花壇に植えてもらっています。2つ目は、相撲です。相撲連盟の顧問として、武道館で行われる県中総体の相撲大会には顔を出しています。この2つのことは、これからもずっと続けたいと思っています。

思い出の中の1つ目として、とても悲しくて残念だったことがあります。それは病気で亡くなったY君のことです。彼は病院生活であったが、3年生の時修学旅行にみんなと一緒にいきたいという強い意志で参加しました。車いすをお母さんが押し、お医者さんが付き添いました。各見学場所を熱心に見て回り、ホテルでの友達と一緒にの食事の楽しい様子がはっきりと思い出されます。退院してみんなと一緒に学校生活を送りたいという願いもむなしく、15歳という年にしてこの世と分かれてしまいました。彼から学ぶことは、命の大切さ、家族の絆、友情、思いやり、希望を失わない、夢に向かって頑張るなど多くの事を栗中生に与えました。



思い出の2つ目として、とても感激したことです。それは栗原郡中学校駅伝競走（男子48回、女子15回）大会です。男子は大会初優勝、女子2年連続準優勝という輝かしい成績でした。特に、走りの途中経過のすばらしさです。男子は、6区間のうち、前半は2位ないし3位でしたが、後半にトップになりそのまま1位でゴールしました。女子は、5区間のうち、前半は4位でしたが、後半に3位、2位と徐々に順位を上げていきました。男女とも栗中の最終ランナーが一迫中のグラウンドに帰って来た時は、これまで一緒に練習に励んだ仲間が大きな声援と喜びで迎えてくれました。このときの様子が忘れられません。これらの



栗原郡中学校駅伝競走
男子大会初優勝 女子2年連続準優勝

ことは、強い精神力と体力を持ち続けて練習に励んだこと、区間に応じて一人ひとりの適性を生かしたこと、お互いの協力と助け合いの心などが、勝利への道に導いたものと思います。

終わりにあたり、栗中が建っている丘は、栗駒山が最も美しく見える所であり、その周辺は、歴史的出来事の宝庫です。まず古くは、33基もある奈良時代の鳥矢ヶ崎古墳、坂上田村麻呂や源頼義、義家親子、藤原秀衡等が関係している屯が岡、秀吉に最後まで戦い挑んだ九戸政實の首洗い池など多くの遺跡があります。どうかこれらのことを誇りに思い、栗中生のますますの活躍を期待します。そして、統合により新しく生まれ変わる輝かしい栗中になることを信じます。



相撲部全国大会出場

鳥矢ヶ崎古墳



九戸政實首級清めの池





閉校にあたり私が望むところ。。。

第16代父母教師会会長 菅原 敏元

栗駒中学校開校以来40年の歴史に幕が閉じられることは誠に残念でなりません。しかし、決して強いものが生き延びているのではなく、その環境に順応出来たものが生存し続けていると云う諺の如く、我が栗駒中学校も現在の社会環境に於いては止むを得ないことだと思慮せざるを得ない時代なのであろう。

さて、現在の学校教育環境と言えは文科省が示す学校支援地域本部事業。そして、宮城県教育委員会が示す志教育等々が現況を取り巻いているが、その点何れも栗駒中学校は先進的に既に取り組みができていた学校であると言えよう。実際に学校や生徒や保護者、及び地域社会が一体となって推し進めてきた事実が脳裏に浮かぶ。その代表的な事例は、栗駒中学校と現栗駒鷲沢商工会青年部が協働し実施していた栗原市コラボスクール推進事業の起業教育がまさに良い例である。



起業教育（平成18年度）

当時の私は、偶然その栗原市コラボスクール推進事業の委員長も仰せつかっており、国立教育政策研究所が主催する、ボランティア活動推進研究セミナーで学校支援ボランティア活動を拓くという全国の社会教育主事や行政職員を対象にした2泊3日の研究協議があり栗駒中実践例の発表依頼を賜り、委員を代表し東京の会場で全国の皆さんに事例発表をさせて頂いたことが脳裏に残ります。

さて、このような全国のモデルとなるような実践を継続しているであろう、今後の新生栗駒中学校の関係者皆様に望む事として、次のテーマを書き添えて結びと致します。

平成20年6月14日、岩手・宮城内陸地震。そして平成23年3月11日、東日本大震災。いずれも記憶に残る大惨事でありました。現在の私は、時間の許す限り（出来ることを・出来る時に・出来るところから）を基本に、ささやかながら被災支援を続けているのですが、そのボランティア活動をしている際ある10ヶ条が目につき、大変役に立っている事例があります。それは、阪神淡路大震災の教訓から地域の人が考え出された仮設自治会をうまく運営する10ヶ条なるものです。

- 第1ヶ条 声かけ、あいさつをする。
- 第2ヶ条 よく話し合いをする。
- 第3ヶ条 ニュースを出す。
- 第4ヶ条 会費を集金する。
- 第5ヶ条 集会所にはいつも誰かいる。
- 第6ヶ条 共有財産をつくる。
- 第7ヶ条 みんなで酒を飲む。
- 第8ヶ条 手作り料理をみんなで食べる。
- 第9ヶ条 季節ごとの行事を大切にする。
- 第10ヶ条 サークル活動を活発に行う。

これらは、現在我々に求められている学校教育環境の必要重要事項と考えます。今後の学校運営に大変重要とされるコミュニティーを始め、教育活動の基本的環境要素として捉えて頂きたいと切に願うものであります。



起業教育（平成20年度）



起業教育 炭焼き（平成21年度）

栗駒中学校閉校に寄せて

学校評議員 佐々木 定行

昭和46年創立以来、いつでも秀峰・栗駒山が生徒を見守ってきました。本校は40年もの間、地域の教育を担い、営々と伝統を築き、多くの優秀な人材を育ててきました。しかし、この3月をもってその歴史を新設校に発展的に引き継ぐことになりました。

これまで、本校の教育を支えてくださいました地域の皆様をはじめ父母教師会の方々と共に今改めて、本校のこれまでの長い歩みを顧みます時、感慨深いものがございます。

本校は、今日まで学校・地域・保護者が一体となり校風と伝統を築き「進取・根気・奉仕」の生活信条のもと、豊かな心を持ち、実践力と創造性に富む生徒の育成を実践してこられました。

これまで、学校評議員として学校を身近に感じ、生徒の日々の活躍や多くの行事に参加させていただきました。栗中生は部活動においても、運動部・文化部に所属し、地区大会や県大会そして全国大会で大活躍し、まさに文武両道の伝統を築き上げました。生徒会活動や地域ボランティアへの参加や地域の行事にも積極的に参加してきました。



合唱コンクール（平成18年度）

毎年の栗中文化祭や合唱コンクールでは各学年ごとに趣向を凝らしての取り組み、特に合唱の練習では校外にまで響き渡る歌声が栗中生の元気を象徴しておりました。

学校評議員として、生徒の感受性の強い成長期の感動の場面に触れさせていただいたり、教職員の学校運営や教育研究、そして、生徒指導に真剣に取り組む姿に、深く敬意を表します。

これまで、栗駒中学校は、多くの方々の温かい支援にこたえようと、一步一步確実に歩み続けてきましたが、平成25年4月からは、その

伝統を新生「栗駒中学校」に引き継ぐこととなりました。本校で学んだ青春の日々は、卒業生、在校生の心の中に「朝日夕日に照り映えて 清らかな嶺栗駒の 恵まれし地に生まれ・・・」とある校歌とともに心に刻まれて行くものであり、地域の方々にも末永く語り継がれて行く事と信じております。

終わりになりますが、栗駒中学校学校評議員として最後まで任をいただき、心から感謝申し上げますとともに、本校の育んだ伝統が受け継がれ、新しい歴史が築かれていくことを心から祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。



校内レクリエーション大会



校舎から望む 秀峰栗駒山



新たな目標

東北相撲連盟副会長

宮城県相撲連盟副会長 佐藤 範男

話のふりだしは、おおよそ35年前の酒肴の席での「失言」に起因していました。

おぼろげな記憶ながら、当時の宮城県相撲連盟の懇親会で、酒の勢いも手伝って、「今後の宮城県の国体選手は、全員、栗駒町出身者で独占する」と大言壮語、まさに「大舌禍事件」の始まり、始まりでした。

そのためには、私の地元である栗駒中学校相撲部の飛躍的な強化が唯一の選択肢で、学校に専門的指導者がいなかったことをよいことに専任指導者の委託を受け、強化指導を開始しました。懷えば、「動機は不純・結果が勝負」のスタートでした。

当時のアマチュア相撲界は、「東北を制する者は、日本を制する」という勢力分布で、その頂点に君臨し続けていたのが名門・青森県であり、打倒青森が東北各県の合言葉でもあった時代でありました。

強化スタッフは、現役を引退直後の私と、全国大会で実績を残した現宮城県相撲連盟理事長の岩淵昭弘さん、同常任理事の蜂谷克彦さんの3人体制とし、昭和54年に校舎の西側に完成を見た栗駒町民武道館を会場に、後に栗中名物と酷評された「相撲部の猛稽古」の幕開きとなった次第です。

連日の猛稽古には、当時の栗駒町相撲連盟の役員・先輩等が多数かけつけ、高校レベルの厳しい練習後には差し入れを囲んでの談笑・激励等が引きも切らず、多くの関係者に支えられながら、相撲部の栄光の歴史を刻み続けることになりました。

強化の成果は顕著で、昭和54年に個人戦初優勝、翌年は団体戦初優勝、そして昭和60年から平成3年まで団体戦7連覇の偉業を達成するなど、県下に敵なしの実績でしたが、打倒青森の実現にはまだまだ技量が不足していた時期でもありました。

平成4年から強化スタッフが若手に一新され、相撲教室や栗原トレセンでの小・中一貫指導や、県外中学生・県内高校生との強化練習等に目的意識的に取り組みました。

その結果、平成17年の東日本選抜中学校相撲大会で見事に団体戦初優勝、悲願の打倒青森を実現、以降「常勝・栗駒中」として、平成22年には東日本選抜中学校相撲大会と東北中学校相撲大会の両大会での団体戦アベック優勝を達成、名実ともに東北の覇者となり、全国制覇が次なる目標となっています。

現在、アマチュア相撲はオリンピックの正式種目化を目指し、日本の「相撲」から近代競技スポーツとしての世界の「SUMO」へと大きく躍進を遂げてきており、当然ながら女子にもその門戸が解放されました。

相撲競技においても、他の種目同様、オリンピックが若い競技者の「目標」のひとつに加わる日も、そう遠くなく実現します。

栗駒中相撲部の新たな目標として、「全国制覇・オリンピック出場」は、とても相応しいフレーズだと思いますが、いかが...



団体戦7連覇（平成3年）



- 個人戦初優勝（昭和54年）
- 団体戦初優勝（昭和55年）
- 団体戦7連覇（昭和60年～平成3年）
- 東日本選抜中学校相撲大会
- 団体戦初優勝（平成17年）
- 東日本選抜中学校相撲大会（平成22年）
- 東北中学校相撲大会（平成22年）

栄光の歴史



第38回全国中学校相撲選手権大会

『ついていない学年』と言われたけれども

平成22年度卒業生 佐藤 慎也

今から4年前、期待と不安を胸に超ブカブカの制服を着て臨んだ入学式・・・私にとって、栗駒中学校での3年間はあっという間の時間でした。

入学から2ヶ月後、初めての中間考査を2日後に控えた6月14日、岩手・宮城内陸地震が起きました。生まれて初めて経験する大地震は、校舎や体育館の壁に無残な亀裂を走らせ、窓ガラスを破壊させ、多くの教室が使用できない状態となり、私たちは自然災害の恐ろしさを痛感させられたのでした。それでも、学年行事の「わらび座研修」や、全校でのレクレーション大会が実施され、むしろ多くの友達と心を通い合わせることができたように思います。



平成20年6月14日 岩手宮城内陸地震図書室の被害



わらび座研修(平成21年度)

2年生では、総合的な学習の時間に、自分達で会社を設立し、独自の商品開発そして製作(生産)をし、「栗駒ドリームカンパニー」として活動しました。地域の方々や先生、保護者の方から多くのアドバイスをいただき、様々な工夫と努力を重ね、自分達で販売するという体験をしました。販売当日は天気に恵まれ、大盛況でしたが、商品を作る過程で「お金を頂くのだから変な物はつくれない」という気持ちが一人一人の中に生まれみんなで一生懸命に取り組んだなど当時のことを思い返します。

充実した生活の反面、忘れられない悔しい思い出もあります。それは、2年生の秋に新型インフルエンザが大流行し、新人戦や各種コンクール辞退という苦渋の選択を余儀なくされたことです。私たちは3年生が引退した後、中総体での悔しさから、今度は自分達の手で優勝を掴み取ろうと必死に練習を重ねてきました。しかし、その矢先の出場辞退という決断に、自分達ではどうしようもない無力感に陥ることになってしまったのです。何よりも命が大切、健康が第一ということは頭の中では分かっていたても、その時は、自分達の気持ちを果たしてと何にぶついたらいいのかどうしようもない状況でした。最後の中総体には必ず優勝し県大会まで頑張るんだという気持ちに切り替えるには時間がかかりましたが、むしろ各部とも気持ちを一新し「栗中」の名のもとに新しい伝統を築くことができたのではないかと考えてます。

そして、明日いよいよ卒業式を迎えようとしていた3月11日、忘れもしない東日本大震災が起きました。2年前の岩手・宮城内陸地震よりもはるかに大きい揺れに誰もが不安の日々を過ごしました。水も電気も使えない状態が続く中、中学校の会議室で校長先生はじめ先生方で挙行してくれた卒業式。在校生は代表一人。来賓も保護者も全員の出席ではありませんでした。

私たちは「ついていない学年」と言われたこともありますが、困難を自分達の糧にして成長してきた学年であると自負しています。楽しかったこと、頑張ったこと、辛かったこと、悲しかったこと、ほんとうにたくさんのことが詰まった中学校生活。そして、すべてを受け止めてくれる先生方がいたこと。私はこの学校が大好きです。

閉校になってしまいますが、成長させてくれた栗駒中学校に感謝し、さらに新たな伝統を築いていくことを期待しています。



起業教育商品品評会(平成22年度)



出会い

平成17年度卒業生 熊谷 瑠美子

栗中を卒業してあつという間に7年。今年私は、栗中に教育実習生として戻りました。再編前の最後の年に、栗中でまた大切な思い出を作ることができ、そして、閉校記念誌への原稿依頼をいただけたこと、何か深い繋がりを感じています。卒業して以来少しだけ遠い存在に感じていた栗中が、今は中学生だった当時のように、ぐっと近い存在になりました。私なりに「栗駒中学校」への感謝の気持ちを込めて、ペンを執ります。

栗中で過ごした中学生生活3年間には、何にも変えられないほど大切な沢山の思い出が詰まっています。現在の私があるのは、栗中での経験や思い出があるからだと言っても、全く過言ではありません。それほど栗中は、私にとってとても大切な、特別な場所なのです。

中学校に入学し、それまでとは違う環境で新しい友達や先輩、先生方に会いました。勉強はもちろんですが、私は3年間、勉強以外の活動に熱心に取り組んだ生徒だったと思います。部活動は吹奏楽部に所属し部長を経験、委員長や学校行事の長はほとんどやったと言えるほど、多くの場で「リーダー」として動く機会をいただきました。



中総体応援（平成16年度）



栗中祭（平成16年度）

その中ではやはり、友人関係に悩んだりリーダーとして動くことの大変さに押し潰されそうになったり、中学生ながら様々なことを抱えていたと思います。それでもそこに私が立ち続けられたのは、一緒に泣いて笑って、苦しい時に支え合えた沢山の友達、先輩後輩、そして私達生徒一人一人と真剣に向き合い、応援して下さった先生方がいたからでした。「私はひとりじゃない、こんなに支えてもらっている」という思いが、いつも私の中にあ

りました。栗中を卒業する時、「栗中生で良かった」と心の底から思いました。

私は、現在中学校の教員になることを目指しています。それは、栗中で沢山のことを経験したことが大きな核となっています。また、一番悩み自分が成長する中学生という時期に、時に親以上に寄り添って下さった素晴らしい先生方に出会えたからです。

教育実習で、改めて栗中の温かさや雰囲気の良いさを感じました。私たちがいた頃よりもさらに力強く栗中を引っ張っていかこうとする後輩達の姿が頼もしく思えました。私も後輩達に負けず、必ず夢を叶え、また栗中に戻って来ることができるよう頑張ります。

来年度から新たな「栗駒中学校」となることが本当に楽しみです。生徒一人一人、居心地が良いと思える環境の中で、伸び伸びと自分の可能性を広げていってくれるよう願っています。栗中だからこそできることがきっとあるはずです。沢山の仲間と支えて下さる先生方、そして家族と共に、失敗を恐れず様々なことに挑戦し、自分自身を成長させて下さい。



栗原郡小中学校音楽祭



第58回栗原郡小中学校音楽祭



夢をもって

平成5年度卒業生 五十嵐 義光

栗駒中学校を卒業してから、約20年が過ぎようとしています。思い出せば、昨日のことにように思います。

当時いろいろなことがありました。世界ではバルセロナオリンピック、日本ではJリーグ開幕、相撲では若貴兄弟ブーム。そして栗駒中学校では、校則でまだ坊主の時代でした。思い出は修学旅行、栗中祭、そして卒業式では全校生徒の前で指揮者を務めたことなど、楽しい思い出ばかりです。そして一番の思い出といえば部活動のことです。私は3年間バスケット部に所属していました。ちょうどスラムダンクが流行していた頃で、各学校でも大人気でした。当時の試合時間は、前半後半15分ずつのゲームでした。試合中はほとんど休憩がないために、普段の練習でも一度くらいしか休憩がなく、その時に飲める水がとても美味しかった記憶があります。毎日が朝練から始まり夜までの練習の日々でした。平日は体育館が一日おきにしか使用できず、使用できない時の外練はハードでした。まずは4キロ、次に校庭に下りる階段でのメニュー、終われば武道館側の坂ダッシュ、最後にグラウンド一周メニューなど行っていました。この毎日の厳しい練習があったからこそ、私達は栗原での大会はすべて優勝することができました。そこにはチームメイト、先輩や後輩にも恵まれ、みんなライバル意識を持ち切磋琢磨した結果だと思います。また、何よりも三人の恩師の方々にも恵まれました。とても熱心なご指導を頂きました。私個人では2年生の頃に、県強化選手に推薦され、とても貴重な経験をすることができました。



中総体（平成4年度）



中総体（平成3年度）

現在は栗原バスケットの普及のために、指導者、審判員として関わっています。こうして今でもバスケットに関わっていただけるのも三人の恩師の方々のご指導があったからだと感謝しています。

最後に将来の生徒達に書きたいと思います。「夢」を持つことです。「夢」を持ち続け自らの手で掴むことです。漠然と考えていても難しいことですが、現実のものにするには、「夢」への人生計画を立てることが大事です。目標をいくつか決めて、一つ一つ達成していき、階段を登り続ければ必ず自らの手で掴むことができるはずです。そこには努力が必要です。「夢」を諦めず掴むことです。

栗駒中学校43年に幕を閉じることは寂しいものです。今後は、栗駒中学校の新たな1ページを築いてもらいたいです。私の「夢」は新生栗駒中学校の指導者として県大会へ一緒に行くことです。



校内陸上大会（平成5年度）



修学旅行（平成5年度）



今もあの頃のままだに

昭和54年度卒業生（第6回生） 遠藤 俊一

私が栗駒中学校へ入学したのは旧栗駒町内の小学校9校（分校を含む）より合併統合して4年目でした。尾松小学校（現栗駒南小学校）のときは1学年2クラスでしたが、中学校では7クラス。270名を超える同級生に囲まれて、天真爛漫な日々を過ごしました。思い起せば、私たちが在学している時に50mプールができ、武道館が立ち、校門の石碑が設置されました。

いろいろな思い出があります。統合当初、男子は丸刈りでした。なんとか髪を伸ばせるように、先輩の頃より生徒会を中心に生徒全員で何度も何度も協議したことを思い出します。在学中、その願いはかないませんでした。その思いを次の後輩たちが引き継ぎ、更に話し合いを繰り返しました。そして多くの生徒たちの思いが実り、20年はかかりましたが、校則が改正できたことに歴史の流れを感じます。

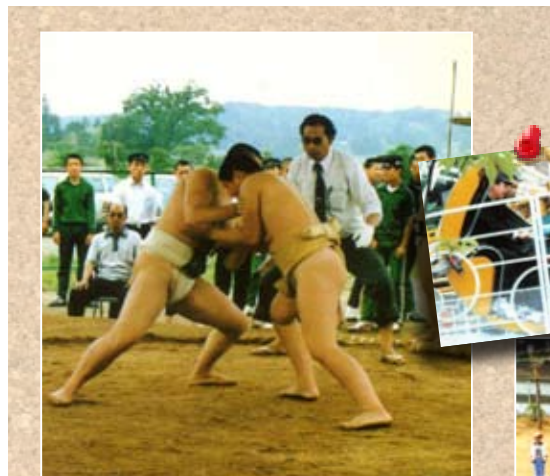
それから、2年生のときに宮城県沖地震がありました。地鳴りがして、ミシミシと音を立てて激しく揺れる校舎。あの恐怖は今でも忘れません。職員室前の階段が東西に30cmずれて、隙間から外が見えました。学校が休校になったことを鮮明に覚えています。

部活動の思い出もあります。東北大会や全国大会で大活躍中の栗中相撲部も私が初代部長として新設されたときには2年生1人、1年生2人の3人だけでした。国体選手の先輩方と毎日猛稽古しました。みんな立てないくらい練習し、桶で水を掛けられたり、大きな声で励まされたり、泣きながら稽古したことを覚えています。後輩たちの頑張りや活躍を新聞で見るととてもうれしく思います。新設当初の目標「全国制覇」をいつか果たしてくれることを期待しています。

時間こそは経ちましたが、大切な仲間も思い出も、あの頃のままだにあります。いろいろな小学校から、個性豊かな生徒が多く集まったあの頃よりも、大分生徒数も減り、仲間との交流も昔のようにはいかないかもしれませんが、心から「友達」と言える友人と出会い、同じ時間を共有し、笑い、悩み、ともに苦しいことも一緒に乗り越えていってほしいものです。一期一会を大切に、多くの出会いの中で、子どもたちが成長していくことを願っています。これから、栗駒中学校は、鶯沢中学校と一緒にあります。それぞれの良さがさらに混ざり合い、素晴らしい学校として発展していくことを心から応援しています。



中総体（昭和53年度）



中総体 県大会（昭和54年度）



校内ロードレース（昭和54年度）



校内陸上大会（昭和54年度）





統合当時の校舎（昭和49年度）



修学旅行（昭和50年度）

栗中祭（昭和50年度）

球技大会（昭和50年度）



中総体（昭和50年度）





校内記録会 (昭和 51 年度)



部活動 (昭和 51 年度)



修学旅行 (昭和 51 年度)



修学旅行 (昭和 52 年度)



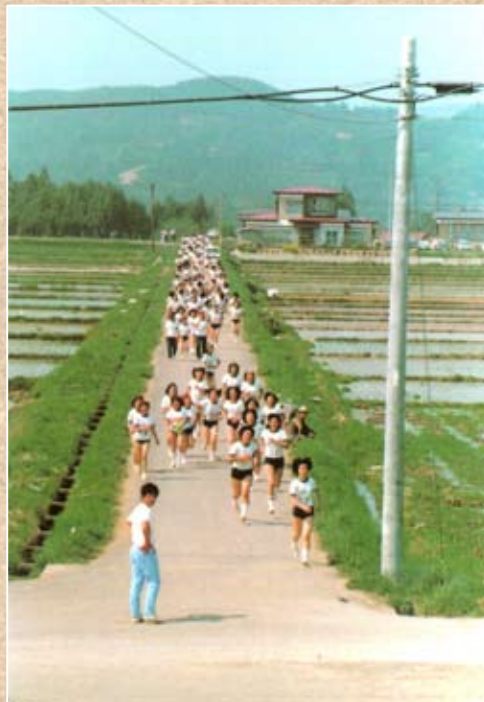
野外炊飯 (昭和 52 年度)



栗中祭 (昭和 52 年度)



修学旅行 (昭和 53 年度)



ロードレース (昭和 53 年度)



校内記録会 (昭和 53 年度)



栗中祭 (昭和54年度)



生徒総会 (昭和54年度)



修学旅行 (昭和54年度)



野外炊飯 (昭和57年度)



ロードレース (昭和57年度)



中総体 (昭和57年度)



栗駒登山 (昭和57年度)



栗駒登山 (昭和 59 年度)



定期戦 (昭和 59 年度)



修学旅行
(昭和 60 年度)



ロードレース (昭和 59 年度)



郡駅伝大会
(昭和 61 年度)



栗中祭 (昭和 60 年度)



郡駅伝大会 (昭和 61 年度)



郡水泳大会 (昭和 61 年度)



ロードレース (昭和 61 年度)



栗中祭 (昭和 61 年度)



栗駒登山 (昭和 62 年度)



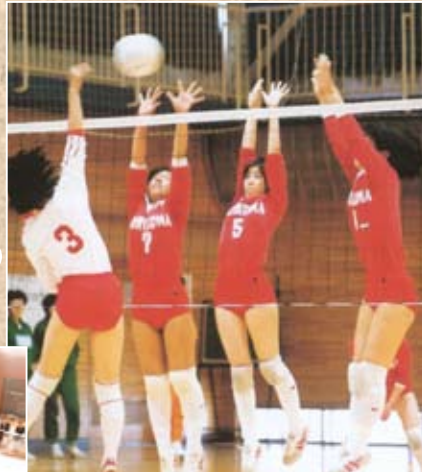
郡駅伝大会 (昭和 62 年度)



栗中祭 (昭和 62 年度)



中総体 (昭和 62 年度)



職員室 (昭和 62 年度)



三二議会 (平成元年度)



修学旅行 (平成元年度)



福祉活動 (平成元年度)



栗中祭 (平成元年度)



修学旅行（平成3年度）



栗駒登山（平成3年度）



生徒総会（平成3年度）



入学式（平成3年度）



授業風景（平成4年度）



栗中祭（平成3年度）



修学旅行（平成4年度）



中総体（平成4年度）



20周年記念植樹（平成5年度）



郡水泳大会（平成5年度）



修学旅行（平成5年度）



スキー教室（平成6年度）



修学旅行（平成6年度）



中総体（平成7年度）



ふるさと芸能の集い（平成7年度）



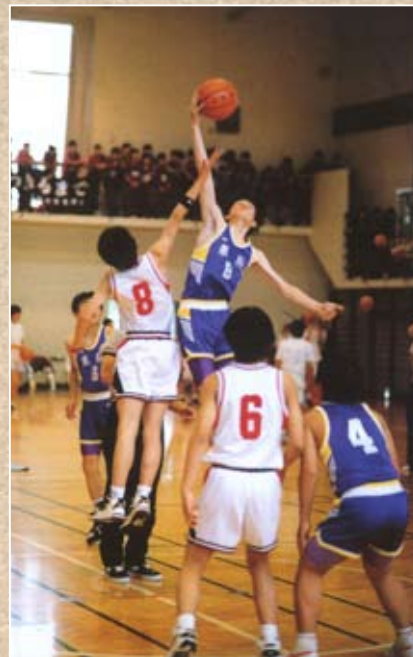
校内体育祭（平成8年度）



修学旅行(平成8年度)



修学旅行(平成9年度)



中総体(平成9年度)



校内レクリエーション大会(平成11年度)



中総体(平成11年度)



中総体(平成11年度)



郡駅伝大会(平成12年度)



中総体(平成12年度)



栗中祭(平成12年度)



ドイツより研修生（平成13年度）



中総体（平成13年度）



授業風景（平成14年度）



中総体 応援（平成14年度）



郡水泳大会（平成14年度）



郡駅伝大会（平成15年度）



統合30周年（平成15年度）



中総体（平成16年度）



校内レクリエーション大会（平成17年度）



修学旅行（平成17年度）



起業教育（平成18年度）



進路学習会（平成18年度）



合唱コンクール（平成18年度）



栗駒登山（平成18年度）



給食開始（平成18年度）



起業教育 (平成 19 年度)

栗中祭 3 年スタンプスター
(平成 19 年度)



修学旅行
(平成 19 年度)

わらび座研修
(平成 19 年度)

起業教育
(平成 19 年度)



応援練習 (平成 19 年度)



校内レクリエーション大会 (平成 19 年度)



起業教育 (平成 20 年度)



校内レクリエーション大会 (平成 20 年度)



栗中祭 (平成 20 年度)



交通安全教室
(平成21年度)



わらび座研修
(平成21年度)



校内レク綱引き (平成21年度)



起業教育 炭焼き
(平成21年度)



栗中祭 合唱 (平成21年度)



生徒総会
(平成22年度)



修学旅行ディズニーランド
(平成22年度)



栗中祭 ふるさとの踊り (平成22年度)



生徒会選挙 (平成22年度)



あきる野市親善交流
(平成22年度)



TBC子ども音楽コンクール (平成22年度)





授業参観 (平成 23 年度)



修学旅行 北海道 (平成 23 年度)



教室土俵練習 (平成 23 年度)



起業教育 [炭焼き]



立志の会 (平成 23 年度)



除染作業 (平成 23 年度)



第 7 回 栗原市小中学校音楽祭

市音楽文化祭 (平成 23 年度)



ミニトマト栽培 (平成 23 年度)



3 年 PTA 行事 (平成 24 年度)



修学旅行職場訪問 (平成 24 年度)



あとがき

栗原市立栗駒中学校
教頭 千葉光太郎

母校がなくなるのはさみしいものです。私の場合、小学校は閉校し跡地は公民館になりました。中学校も統合したため名前がなくなり、跡地は小学校になっています。その小学校も再編により今年度限りとなりました。重ねて、高校は名前は残っているものの場所が変わり、しかも質実剛健で鳴らしていた学校が、男女共学になってしまいました。年を経た今、母校は全て消えてしまったような気がします。

現栗駒中学校は鶯沢中学校と再編しても新生栗駒中学校として名前は残ります。場所も同じです。鶯沢地区の生徒を迎えて栗駒中学校として発展こそすれ、母校が消える、という感慨は鶯沢中学校関係者のみなさんに較べれば薄いのではないかと想像します。

昨年は花山中学校勤務だったため、一迫中学校と市内中学校最初の再編を経験しました。新しい学校名は栗原西中学校となりましたが、場所、校舎とも旧一迫中学校であったため、いわば私としては今年度と逆パターンの学校再編でありました。生徒はお互いの文化祭に参加したり、一緒に職場体験をしたり、閉校のさみしさは口にするものの積極的に、そして前向きに交流していました。

また再編後の今年、花山から通っている生徒達の様子を聞きますと、積極的に生活しているとのこと。そうなのです。思い出として、いつまでも感慨にふけているのは大人達なのではないでしょうか。子ども達は新しい生活の中で生き生きと活動し、未来を志向していると思われまます。

鶯沢中学校から栗駒中学校の校舎に入る生徒も、大人が心配するよりもずっと対応力・応用力を持っていて、再編初年度から新生栗中として順応し、活躍することでしょう。まして新しい仲間を得た現栗中は、更にパワーアップして新生栗中を創造することでしょう。そして我々教職員は、保護者の皆様と力を合わせ、子ども達の学校生活を見守り、支え、夢の実現に近づけるため、また栗駒中学校の更なる発展のため頑張っていく所存です。

最後に、これまで栗駒中学校に多大なるご理解・ご支援をいただいた諸機関及び地域の皆様方、また本閉校記念誌に心温まるご寄稿を頂戴した皆様方に厚く御礼を申し上げますとともに、新生栗駒中学校の隆盛・発展を祈念してあとがきといたします。



栗原市立栗駒中学校閉校記念誌

発 刊 平成25年3月

発 行 栗原市教育委員会

企画・編集 栗原市立栗駒中学校



